

4 月 20 日（日）に行われた平成 26 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表された得点分布などの統計データをもとに、プロジェクトマネージャ試験の合格発表コメントをお知らせします。

## ■プロジェクトマネージャ試験（PM）

[平成 26 年春期のプロジェクトマネージャ試験 統計情報]

応募者	17,584 人
受験者	10,927 人
合格者	1,385 人
合格率	12.7%

平成 26 年春期のプロジェクトマネージャ試験の合格率は 12.7%で、ほぼ例年どおりの合格率でした。まず始めに、新試験で従来の午前試験が分割された午前Ⅰと午前Ⅱの試験の分析結果をお知らせします。

### [午前Ⅰ試験（高度試験の共通知識問題）]

- ・高度試験に共通して出される問題 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験（AP）から選ばれています。これまで、AP の問題の中でも比較的素直で常識的な問題が選ばれていましたが、今回は少し難しめの問題が選ばれており、やや解答しづらかったといえます。
- ・過去問題の比率は約 6 割で従来どおりの比率といえ、新傾向問題も前回と同様で多くはありませんでした。
- ・分野別の出題比率は前回と同じで、出題範囲の中で 23 ある中分類からまんべんなく出題されていますが、重要な内容（中分類）からは複数出題されています。今回からセキュリティ分野を重視した出題に変わりましたが、出題数は前回より 1 問増えて 4 問でした。

- ・新傾向問題は次の 3 問でした。

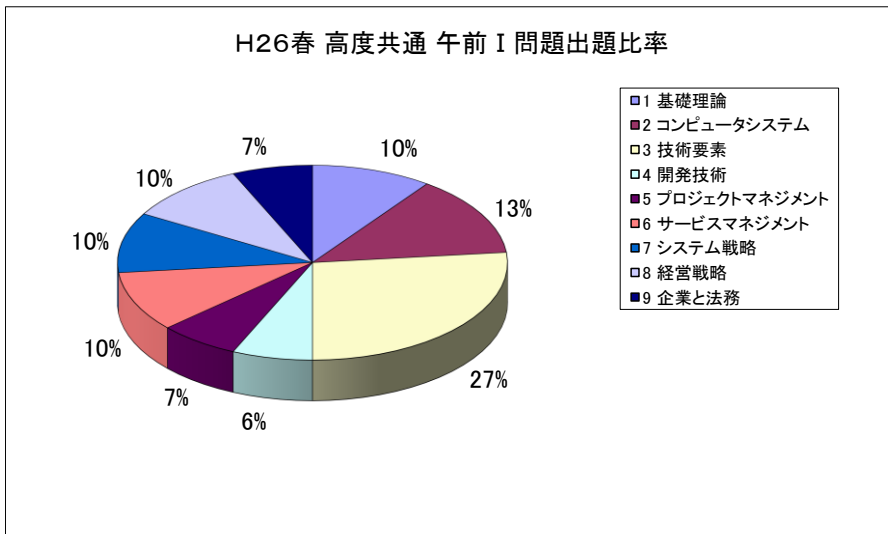
（新傾向問題）

問 3 記憶領域管理アルゴリズムのベストフィット方式

問 25 BABOK の説明

問 26 ダイバーシティマネジメントの説明

平成 26 年春期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率



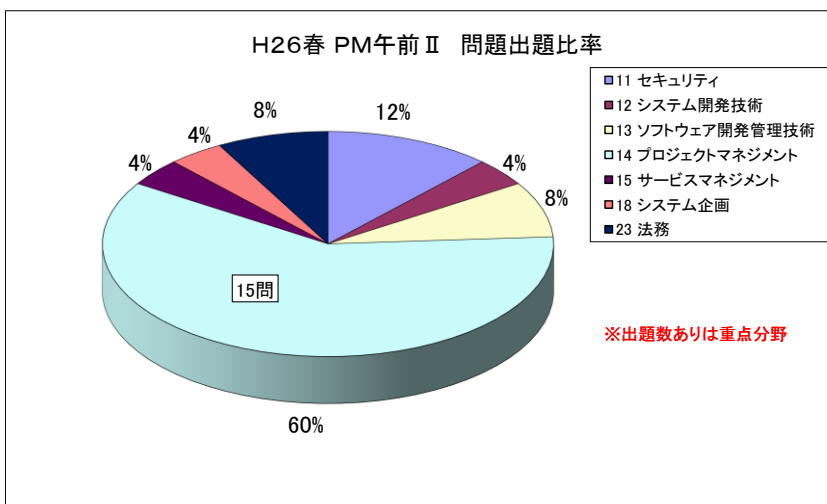
【午前 II の専門知識問題】

午前 II 試験では、専門分野のプロジェクトマネジメント（PM）分野で 15 問出題されており、半分以上の出題数になっています。PMBOK と明記した問題は今回 5 問あり、前回は 1 問でしたのでかなり増えました。昨年 4 月に出題範囲が変更になり、これまでの PMBOK に加えて、国際規格の ISO21500 も出題対象になりましたが、今回は出題されませんでした。また、今回の試験からセキュリティ分野からも出題されることになりましたが、3 問出題されました。

新傾向問題としては、次の問題が挙げられます。

- 問 2 プロジェクトの時間経過で変動する要素
- 問 4 組織のプロセス資産
- 問 6 ローリングウェーブ計画法の説明
- 問 7 RACI チャートで示す役割と責任
- 問 10 ベースラインと実績の乖離を明確にする技法
- 問 21 ランニングロイヤリティの説明

平成 26 年春期のプロジェクトマネージャ試験 午前 II 問題出題比率



### 〔午後問題〕

・午後Ⅰ問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。新試験では解答数が3問から2問に減りましたが、他の試験と同様に、1問あたりの解答量が多くなってきており、解答時間の余裕はあまりないと思われます。

・今回の試験から、午後Ⅰ試験は出題数が3問に減り、選択の幅が狭くなりましたが、問題テーマは分かりやすく、解答しやすい内容でした。

#### 問1 人材管理システムの構築（建設業） やや易

スコープマネジメント、作業の狙い、ステークホルダの要望、現状業務の問題点、要求の合意、プロトタイプの見解把握理由、新システムのリスク

#### 問2 プロジェクトの進捗管理（ネット通販会社） 普通

プロセス統一が引き起こす恐れ、進捗率の計算方法、実績線・イナズマ線が示す想定、アクティビティ割当てにおけるリスク、外部設計の遅延対策、生産性・品質低下につながる問題

#### 問3 生産管理システムの再構築（製造業） やや易

請負契約を締結するリスク、契約締結のため提示した条件、複数見積りをとる意義、評価基準として重視する条件、テスト網羅性の疑問理由、新システム並行運用のリスクと対応策

・午後Ⅱの論文問題の出題分野とテーマは次のとおりです。前回同様、どの問題も一般的な記述し易いテーマでした。

・今回の試験から、午後Ⅱ試験は出題数が2問に減り、論文テーマも選択の幅が狭くなりましたが、今回の出題内容は2問ともオーソドックスなテーマでした。

新試験では各設問に字数制限が付き、設問ア：800字以内、設問イ：800字～1,600字：設問ウ：600字～1,200字となっています。

#### 問1 システム開発プロジェクトにおける工数の見積りとコントロール

プロジェクトの特徴、見積りのための入手情報、工数見積り時点、工数見積り方法、正確に行う工夫、工数コントロールのための運営面の施策、実施状況と評価、発見した問題と対策

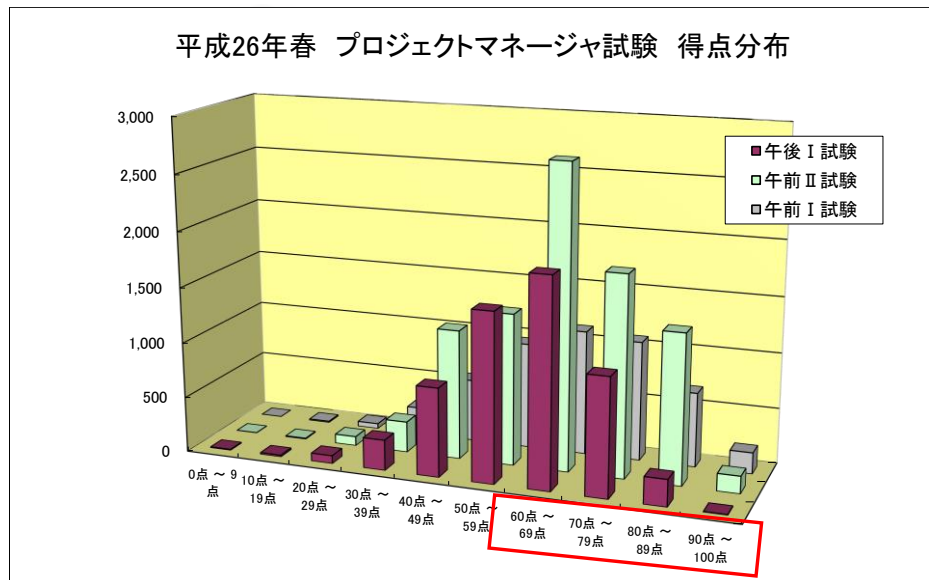
#### 問2 システム開発プロジェクトにおける要員のマネジメント

プロジェクトの特徴、組織体制、期待した要員の能力、能力が発揮されない事態、立案した対応策、実施状況、事態発生の原因、再発防止策、防止策の実施状況

〔平成26年春 プロジェクトマネージャ試験 スコア分布〕

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	0	2	8	D 439	
10点～19点	11	8	15		
20点～29点	45	83	72	C 369	
30点～39点	246	279	275		
40点～49点	564	1,166	799	B 954	
50点～59点	955	1,362	1,515		
60点～69点	1,121	2,708	1,865	A 1,385	
70点～79点	1,075	1,800	1,061		
80点～89点	670	1,342	241		
90点～100点	191	156	5		
計	4,878	8,906	5,856		3,147
対前試験比率		182.6%	65.8%	53.7%	44.0%
午前Ⅰ免除者概算	6,049	55.4%			

合格者数	1,385	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ 60点以上合計	3,057	62.7%	1,672
午前Ⅱ 60点以上合計	6,006	67.4%	4,621
午後Ⅰ 60点以上合計	3,172	54.2%	1,787
午後Ⅱ・A評価	1,385	44.0%	0



新試験制度で春期の試験で午前Ⅰ試験免除になった人がたくさん出ましたが、得点分布を分析してみると、今回午前Ⅰ試験の免除者は概算で6,049人（55.4%）おり、受験者の6割近くが午前Ⅱからの受験となっています。

得点分布を分析してみると、高度系共通の午前Ⅰ試験で基準点（60点）以上の人は3,057人（受験者の62.7%）で、この結果は前回の49.8%に比べて10%以上多くなっています。問題自体が特に易しかった訳ではないので、午前Ⅰ試験対策がしっかり行った人が多かった結果と考えられます。また、午前Ⅱ試験で基準点以上の人は6,006人（受験者の67.4%）でしたが、前回試験では78.9%でしたので、今回の出題内容が難しかったことを示しています。今後の午前Ⅱ試験でも、難しい問題が出題されることも考えられるため、難易度の少し高い問題も解答できるように学習する必要があるといえます。

午後Ⅰで基準点（60点）以上の得点者は54.2%で、前回試験の46.9%に比べて8%ほど上がっています。また、午後Ⅱで合格点のA評価だった人は44.0%で、前回試験の45.1%とほぼ同じ結果でした。出題数が減ったことの影響はあまり出ていないといえます。

### (今回合格された人)

今回見事合格された方で、今秋の IT スキル標準レベル 4「ネットワークスペシャリスト, IT ストラテジスト, システムアーキテクト, IT サービスマネージャ」の試験を目指す方は、午前の試験が「共通知識」の午前Ⅰと「専門知識」の午前Ⅱに分かれます。ただし、午前Ⅰ試験に関しては免除になりますので、午前Ⅱの学習をなるべく早く開始しましょう。

初めて IT スキル標準レベル 4 の試験を受験する方には、書籍・eラーニング(WEB 教材・WEB テスト)・公開模試がセットになって試験範囲全体を短期間で万遍なく学習できる通信教育の「WEB 午前Ⅰ免除コース」がオススメです。

その他、学習を進めていくにあたっては、通信教育以外にも午前試験対策に重点をおいた「宿題メール」。受験対策のプロ講師による午後試験対策に重点をおいたセミナーの「合格ゼミ」など、学習アイテムを豊富に取り揃えております。通信教育に午後試験対策用に「合格ゼミ」を追加するなど組合せは自由自在なので、今春の受験で苦手意識のあった分野の弱点克服をしつつ、次のステップアップを目指しましょう。

### (今回残念ながら不合格だった人)

まずは、自分がよく理解していない内容について早めの学習が重要です。午前分野が苦手な方は、「応用情報・高度共通 午前試験対策」や「応用情報技術者 最頻出問題集」などの書籍を活用しじっくりと振り返り学習をしてください。

今回の午前試験の得点が 50 点～59 点だった方は、合格ラインまで“あと一歩”のところまで実力がついていきますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策を始めましょう。移動中などのスキマ時間で問題演習に取組める「宿題メール」なども活用してみてください。

また、午後試験の得点が 60 点未満だった方は、確実に得点するために落ち着いて問題を解き、解答が正しいかを検証する力を付けましょう。選択範囲が広がったことで解答し易い問題を選び早めに対策を始めましょう。なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場を受験するなど、本番を想定した学習を行うのも効果的です。

再受験される方には、午前試験対策はポイント確認とトレーニング問題、午後試験対策は重要ポイントを音声・スライドで解説などの充実した弱点補強に最適な演習型 e ラーニングコース「WEB 演習コース」や、本番と同じ条件(出題形式・出題数・試験時間)で実施される模擬試験を受験し、ベテラン講師による採点評価で自身の弱点を把握することができる「全国统一公開模試」などがおすすめです。午前試験対策の「宿題メール」、午後試験対策の「合格ゼミ」などを組み合わせれば、さらに合格へと近づくことができるでしょう。不足している知識や分野ごとに組み合わせで補強して次回合格を勝ち取りましょう。

2014 年秋期試験対策の新しい書籍については弊社のホームページからご覧ください。

(<http://www.itec.co.jp>)



■現在刊行済みの2014年用 試験対策書籍

- ・午前試験対策おすすめ書籍



- ・午後試験対策おすすめ書籍



- ・分野別予想問題集





・問題演習おすすめ書籍



・論文対策おすすめ書籍



■今後の刊行予定書籍

- ・「2014 秋 徹底解説 情報セキュリティスペシャリスト 本試験問題」  
7/月上旬 発売予定

直近の本試験の内容を理解して、出題傾向を把握するのに最適!!